

次期「京都市はぐくみプラン」内における若者の意見反映について ～若者の声反映プロジェクト（仮称）～

次期「京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画 ※以下「次期プラン」という）」の策定に向け、青少年 活動センター（市内 7 箇所）において、若者当事者及び関係者への意見聴取・集約を行い、次期プランへの提言を行う。

1. 団体概要

（１）「ユースカウンスル」とは

- ・地域に住む若者たちの声を集め、**若者自身が主体となって自分たちのまちをつくっていくための仕組み。**
- ・「若者議会（会議）」「若者協議会」とも呼ばれ、新城市若者議会（愛知県）、遊佐町少年議会（山形県）、尼崎ユースカウンスル事業「Up to You!」（兵庫県）など、全国各地で実践事例がある。

（２）ユースカウンスル京都（YCK）

- ・（公財）京都市ユースサービス協会の「シティズンシップ形成事業^{※1}」の 1 つとして、令和元年 5 月に設立。
- ・**大学生から社会人（概ね 20～30 歳）が在籍。**主な拠点は京都市中央青少年活動センター。
- ・若者の視点で、京都をもっと暮らし良いまちにすることを目指し、これまで**様々な分野のプロジェクトや、行政機関（こども家庭庁・京都市）との意見交換等を実施。**
⇒令和 5 年 9 月に、京都市内にてこども家庭庁との意見交換を実施。同年 11 月からは毎月、育成推進課の職員の方々と、若者の意見反映に関する今後の取組や計画について意見交換会や勉強会を実施。

<活動事例（抜粋）>

- ・中京区の魅力再発見！「**中京区街歩きすごろく**」制作（輝く学生応援アワード受賞）
- ・実践者や自治体関係者等が集い、学び合う「**わかもののまちサミット 2022 in 京都**」の共催
- ・中高生のための「**しゃべり場**」（進路や学校生活等に関する語らいの場づくり）
- ・京都府知事選挙啓発アート企画「**サクラ咲ケプロジェクト**」及びリレー講座（京都新聞掲載）
- ・中央青少年活動センターにおける若者の居場所づくり、質問箱「ゆいったー」の運営
- ・京都の史跡を巡るフィールドワーク「**Re:これくと京都**」の開催
- ・全国のユースカウンスル団体、若者議会との意見交換

※1 若者が多様なコミュニティに主体として参画し、政治・行政の決定過程に自らの視点で政策提案をし、若者の意見や活動が尊重・反映される社会の実現に向けた取組のこと。

2. 取組内容（案）

（１）本プロジェクトの目標

- ①次期プランにおいて、**若者の声（意見）が実際に反映**されていること。
- ②若者の意見反映が一過性のもので終了せず、**プラン策定後も継続して、声を聞く仕組みがある**こと。

（２）次期プランにおいて、若者の意見を反映させる主な項目

- ・基本理念、目指すべきまちの姿（現プラン：４頁）
- ・子ども・若者の社会参画・意見反映（プラン策定後の意見反映の仕組み等）
- ・若者が主体となって活動する団体等の活動を促進する環境整備等

（３）意見聴取の方法等

- ・京都市及び（公財）京都市ユースサービス協会と連携し、各青少年活動センターを利用する１３～３０歳の青少年を主な対象として、ヒアリングやアンケート等を実施予定。
- ・センター利用者や学生サークル等の活動団体に属する若者当事者のほか、ユースワーカーといった日常的に若者への支援を行う関係者にもヒアリング等を行う。
- ・各施設の特徴や利用者層の状況等を考慮し、具体的な聴取の方法については、各青少年活動センター及びYCK間で個別に調整を行う。

<想定される聴取方法>

訪問型ワークショップ、個別インタビュー、アンケート調査（紙・電子）、センター内の掲示板や黒板等を活用した意見募集など

（４）取組時の留意点

- ・単なる要望の集約だけではなく、その考えに至った理由や背景も確認しながら、意見聴取を進める。
- ・若者当事者が意見を出しやすい雰囲気づくり（聞き手の姿勢、設問等）
- ・各センターに対し、YCKから担当者１～２名と総括責任者を配置予定。
また、意見聴取の状況については、適宜、育成推進課、京都市ユースサービス協会及びYCKで共有・修正しながら、取組を進めていく。

（５）その他

- ・子ども・若者向け冊子（簡易版）の作成

3. 今後のスケジュール

- ・４～５月上旬 各青少年活動センターとの調整（意見聴取の方法、期間等）
- ・５～６月頃 若者当事者等への意見聴取 @各センター
- ・７～８月初旬 意見集約、提言内容の検討
- ・８月初旬 提言提出
- ・秋頃 市のパブリックコメントに協力